

資 料 目 次

資 料 名		ページ
資料1	公立高等学校配置計画案（平成21年度～23年度） [空知北学区部分抜粋]	1
資料2	「滝川工業高等学校の活性化を支援する会」構成名簿	2
資料3	北海道滝川工業高等学校土木科存続に係る要望行動	3
資料4	地域要望の趣旨	4
資料5	北海道滝川工業高等学校土木科の存続を求める要望意見書	5
資料6	滝川市議会による北海道滝川工業高等学校土木科の存続を求める要望意見書提出行動	6
資料7	空知北学区願書出願状況一覧（H17～21）	7
資料8	滝川工業高等学校を支援する集い（概要）	8～19
資料別添	報道関係記事	

空知北学区高校配置計画案

区分	H 2 0			H 2 1			H 2 2			H 2 3			H 2 4			H 2 5			H 2 6			H 2 7			計
学区内中卒者数	1,398			1,372			1,407			1,300			1,244			1,214			1,195			1,180			▲ 218
対前年増減				▲ 26			35			▲ 107			▲ 56			▲ 30			▲ 19			▲ 15			
滝川市中卒者数	(408)			(401)			(418)			(377)			(392)			(351)			(363)			(351)			▲ 57
対前年増減				▲ 7			17			▲ 41			15			▲ 41			12			▲ 12			
学校名	平成20年度の状況 学科及び募集学級数				◎欠員	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24～27年度までの見通し										摘要						
	普通	職業	計																						
滝 川	6		6	7					○4年間で2～3学級相当の調整が必要										○滝川市内について、職業学科を含めた再編を検討						
滝川工業		工 3	3	32			工▲ 1																		
*滝川西	3	商 4	7	-2																					
単 砂 川	4		4	14																					
奈井江商業		商 2	2	32																					
新十津川農業		農 1	1	13																					
芦 別	4	商 1	5	60																					
赤 平	1		1	3																					
深川西	4		4	5																					
深川東		農・商 4	4	28																					
10校	22	15	37	192			工▲ 1																		

滝川工業高等学校の活性化を支援する会 構成名簿

平成20年7月8日発足

団 体 名	代表者 職・氏名		備 考
滝川商工会議所	会 頭	渡 邊 恭 久	会 長
江部乙商工会	会 長	西 田 裕 康	
滝川建設協会	会長代行 (副会長)	田 端 千 裕	
たきかわ農業協同組合	組合長	工 藤 正 光	
滝川市町内会連合会連絡協議会	会 長	泉 田 千 一	
滝川市PTA連合会	会 長	川 西 康 弘	
滝川工業高等学校同窓会	会 長	尾 崎 静 夫	副会長
同 P T A	会 長	西 田 良 文	

(順不同・敬称略)

北海道滝川工業高等学校土木科存続に係る要望行動

◎要望日 平成20年8月19日(火)

(空知教育局長への要望行動は、翌20日に小田教育長より実施。)

◎要望者

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| 1. 滝川市長 | 田 村 弘 |
| 2. 滝川市議会副議長 | 水 口 典 一 |
| 3. 滝川市教育委員会委員長 | 若 松 重 義 |
| 4. 滝川市教育委員会教育長 | 小 田 真 人 |
| 5. 滝川工業高等学校の活性化を支援する会副会長(滝川工業高校同窓会長) | 尾 崎 静 夫 |

◎同行者

- | | |
|------------|---------|
| 1. 北海道議会議員 | 大 河 昭 彦 |
|------------|---------|

◎要望先

○知事部局

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. 北海道知事 | 高 橋 はるみ |
| 2. 北海道知事政策部長 | 高 原 陽 二 |
| ③. 北海道知事政策部政策審議局長 | 田 邊 隆 久 |

○北海道議会

- | | |
|-------------------|---------|
| ①. 北海道議会議長 | 釣 部 勲 |
| 2. 北海道議会副議長 | 鯉 谷 忠 |
| 3. 北海道議会文教委員会委員長 | 内 海 英 徳 |
| 4. 北海道議会文教委員会副委員長 | 池 田 隆 一 |

○北海道教育委員会

- | | |
|------------------------------|---------|
| 1. 北海道教育委員会委員長 | 橋 場 昇 |
| 2. 北海道教育委員会委員 | 神 谷 奈保子 |
| 3. 北海道教育委員会委員 | 若 狭 洋 市 |
| 4. 北海道教育委員会委員 | 三 戸 和 昭 |
| 5. 北海道教育委員会委員 | 鷹 野 正 義 |
| ⑥. 北海道教育委員会教育長 | 吉 田 洋 一 |
| 7. 北海道教育庁教育次長 | 杉 浦 久 弘 |
| 8. 北海道教育庁教育次長 | 白 髭 俊 穂 |
| ⑨. 北海道教育庁新しい高校づくり推進室長 | 岸 豊 |
| ⑩. 北海道教育庁新しい高校づくり推進室参事(高校配置) | 松 山 拓 男 |
| ⑪. 北海道教育庁新しい高校づくり推進室参事(改革推進) | 森 徳 男 |
| ⑫. 北海道教育庁空知教育局長 | 山 田 寿 雄 |

<敬称略>

地域要望の趣旨

北海道滝川工業高等学校は、昭和 26 年に電気科・土木科が設置され、これまで 9 千人を超える多くの優秀な技能・技術者を輩出してきました。そして卒業生の多くが空知管内の基幹産業である建設業等の担い手として、地域経済の発展に大きく寄与されてきました。この地域の建設会社に勤める中空知管内の高校卒業生の技術者のうち、半数以上が滝川工業高等学校卒業生であり、管内建設業の人材育成の中核的な役割を果たしています。

本年 6 月に公表されました「公立高等学校配置計画案」には、この 50 有余年の歴史と伝統を誇る滝川工業高等学校土木科の間口を平成 23 年度に削減することが盛り込まれました。

空知管内は、北海道の大動脈である国道 12 号などの幹線道路や母なる川石狩川及びその水系河川、さらに米を始めとする農産物生産基地として重要な位置付けにあり、新・北海道総合計画や新たな北海道総合開発計画の具体的な推進に向けて検討されている、道央広域連携地域の政策展開方針や地域重点プロジェクトにおいても道路、河川、農業の基盤整備の促進が重要とされています。

土木科の廃止は、地域の社会資本基盤整備を担う人材の確保が困難となるだけでなく、高齢化が進む地域の建設系技術者から次世代への技術の伝承も行われなくなり、この地域の経済・産業に多大なる影響を与えることとなります。

つきましては、市内関係団体との協議の上、次のとおり要望いたしますので、滝川工業高等学校がこの地域において、産業人材育成の拠点として重要な役割を果たしていることに鑑み、特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 北海道における産業教育の一層の充実強化を図るとともに、地域産業の技能・技術を支える人材育成拠点である工業高校について、地域産業の特性に応じた学校配置に努めていただきたい。
2. 滝川工業高等学校の土木科は、空知の基幹産業である建設業にとって最も重要な人材育成機関として、その存続を図っていただきたい。
3. 地域の特色を生かした今後の滝川工業高等学校の活性化方策をさらに検討していただくとともに、地域との密接な協議の中にその具体策を講じていただきたい。

北海道滝川工業高等学校土木科の存続を求める要望意見書

北海道滝川工業高等学校土木科は、昭和26年に地域の要請により、当時の北海道滝川西高等学校に併置されたことを出発点とし、これまでに二千近くの人材を輩出し、この地域の産業の発展を支えてきました。近年においては、高校生ものづくりコンテスト全国第3位という国内でも特に優れた実績を残しているほか、地域奉仕活動にも積極的に取り組むなど地域の誇る産業人材育成拠点であります。

本年9月2日、北海道教育委員会の発表した公立高等学校配置計画（平成21年度～平成23年度）によりますと、このかけがえのない北海道滝川工業高等学校土木科が平成23年度より募集停止されることとなりました。

本年6月の公立高等学校配置計画案発表以降、地域においては、北海道滝川工業高等学校の活性化を支援する市民団体が結成されるなど、滝川市をはじめ地域の多くの関係機関や団体が、空知北学区唯一の工業高校である北海道滝川工業高等学校土木科の存続に向けて努力し、土木科の活性化策について積極的に北海道教育委員会に提案してまいりました。

然るに、北海道滝川工業高等学校土木科の募集停止が決定されたことは、土木技術を学ぼうとする子どもたちへの門戸を閉ざすこととなるばかりか、この地域の基幹産業である建設業における人材確保を著しく困難にさせ、人材が確保できずに廃業に追い込まれる企業の発生が危惧されるなど、地域全体への影響も計り知れません。

また、土木技術を学ぼうとする子どもたちが札幌や旭川への通学や下宿等を余儀なくされることは、保護者への大きな経済的負担に繋がります。

こうしたことから、北海道滝川工業高等学校土木科の平成23年度募集停止に反対し、公立高等学校配置計画（平成21年度～平成23年度）の見直しを行うよう強く要望します。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

平成20年9月25日

北海道滝川市議会

滝川市議会による北海道滝川工業高等学校土木科 の存続を求める要望意見書提出行動

◎要望日 平成20年10月10日（金）

◎要望者

○正副議長

1. 滝川市議会副議長
2. 滝川市議会副議長

中 田 翼
水 口 典 一

○総務文教常任委員会

1. 委 員 長
2. 副委員長
3. 委 員
4. 委 員
5. 委 員
6. 委 員

本 間 保 昭
三 上 裕 久
窪之内 美知代
関 藤 龍 也
大 谷 久美子
井 上 正 雄

◎同行者

1. 北海道議会議員

大 河 昭 彦

◎要望先

1. 北海道知事
2. 北海道議会議長
3. 北海道教育委員会教育長
4. 北海道教育庁空知教育局長

高 橋 はるみ
釣 部 勲
吉 田 洋 一
山 田 寿 雄

＜敬称略＞

○「空知北学区願書出願状況一覧（H17～21）」

学校名	学科名	募集人員	間口	H17	H18	H19	H20	H21	
				変更後	変更後	変更後	変更後	当初	変更後
滝川高校	普通科	240→ 200(H20)	5	255	241	252	203	235	225
	理数	40	1	41	40	40	33	34	34
滝川西高	普通科	120	3	126	125	123	119	114	124
	会計ビジネス	80	2	84	75	85	89	89	89
	情報ビジネス	80	2	72	90	92	85	93	89
滝川工業	電子機械	40	1	52	57	39	58	43	43
	電気	40	1	35	19	21	21	32	32
	土木	40	1	11	7	10	9	8	8

砂川高校	普通科	160	4	143	128	139	141	163	163
奈井江商業	商業	40	1	23	24	26	22	12	12
	情報処理	40	1	29	34	24	22	41	43
新十津川農業	農業・生活	40	1	41	33	30	27	24	24
芦別高校	普通科	160	4	149	132	124	123	102	103
	情報ビジネス	40	1	33	22	19	18	23	23
赤平高校	普通科	40	1	13	37	41	36	22	21
深川西高	普通科	160	4	146	168	169	157	147	150
深川東高	生産科学	40	1	11	20	23	18	25	25
	流通経済	80	2	90	76	54	67	45	46
	情報処理	40	1	32	28	36	39	32	32

○滝川工業高等学校を支援する集い（概要）

日 時	平成20年8月17日（日曜日）午後5時～ 学校施設見学（自由参加） 午後5時35分～ 集い
場 所	滝川工業高等学校 記念館
主 催	滝川工業高等学校の活性化を支援する会
後 援	滝川市・滝川市教育委員会
開催趣旨	空知北学区唯一の工業高校であり、将来における地域のものづくりを基盤とした産業人材育成にとって欠かすことのできない滝川工業高等学校の重要性を、より多くの方々にご理解いただくとともに、同校への支援の思いをさらに多くの方々に広げる機会とするため、「滝川工業高等学校を支援する集い」を開催したい。
次 第	（司会：西田良文、滝川工業高等学校PTA会長） - 開 会 - 主 催 者 挨 拶 ・ 副会長 尾 崎 静 夫（滝川工業高等学校同窓会長） - 来 賓 挨 拶 ・ 滝川市長 田 村 弘 様 ・ 北海道議会議員 大 河 昭 彦 様 ・ 滝川工業高等学校校長 青 木 一 明 様 ※その他来賓紹介 ・ 滝川市議会議員 中 田 翼 様 ・ 滝川市教育委員会委員長 若 松 重 義 様 ・ 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議委員長 土 居 幸 一 様 - 経 過 説 明 （事務局） - 講 演 演題：「私と滝川工業高等学校」 ・ 泉 田 千 一 氏 （元滝川工業高等学校教員、滝川市町内会連合会連絡協議会会長） - 活性化プラン概要説明（事務局） - 質疑・提言等 - 要望趣旨説明 ・ 副会長 尾 崎 静 夫（滝川工業高等学校同窓会長） - 閉 会
参加者	約120名

概 要

当日午後５時から希望者（約５０名）による校舎内の見学が行われた。

３科の実習室で行われた工業高校教員による NC 機械や CAD など先端設備の説明においては、見学された方が最新技術に目を見張っている姿や、改築後（Ｈ９年改築）初めて学校を訪れる OB の方から、自分たちの学んだ校舎との違いに隔世の思いを感じられるとの声が伺えた。

午後５時３５分から「滝川工業高等学校を支援する集い」が記念館１階体育室において開かれた。

集いは、「滝川工業高等学校の活性化を支援する会」の西田良文氏（工業高校 PTA 会長）の司会で進められ、まず、主催者を代表して支援する会の尾崎副会長から挨拶いただき、工業高校に対する支援を訴えた。

来賓挨拶では、田村市長からものづくりの人材育成拠点がなくなる事への危機感があり、市としても可能な限りの工業高校への支援と、北海道教育委員会に土木科の存続を要望する旨の挨拶があった。大河道議からも、地域社会のために学校をなくしてはならない。そのために道教委に働きかける旨の挨拶があった。青木工業高校校長からは、日頃の支援・協力の謝辞と今後も支援をお願いする旨の挨拶があった。

事務局からの経過説明の後、元滝川工業高校教員の泉田千一氏（滝川市町内会連合会連絡協議会会長）から、昭和３９年から平成９年までの３３年間に及ぶ工業高校での教員生活を振り返り、同校奉職時の滝川市の大火の話に始まり、在職時のエピソードも交えながら、土木科の必要性についての講演をいただいた。参加者のなかには尾崎副会長を始め泉田氏の教え子も数多くいて、同氏の話に感慨深そうであった。

活性化プラン概要説明では、事務局から滝川市の国際交流の実績など地域資源を生かした国際的な視野を持ったものづくりの人材育成を目指す「テクノグローバルリスト」育成プランや専攻科など工業高校の活性化プランが提案された。

このあと、会場の参加者から質疑や提言があり、土木科の生徒数の状況や生徒増に向けた取り組みへの質問や、同校存続への思い、高等技術専門学院を始め地域のものづくり人材育成拠点をなくすことは地域の崩壊に繋がる、絶対に工業高校をなくさないでほしい等の意見があった。

最後に、尾崎副会長が要望の趣旨を読み上げ満場の拍手で了承され、会場は熱気のもとに終了した。

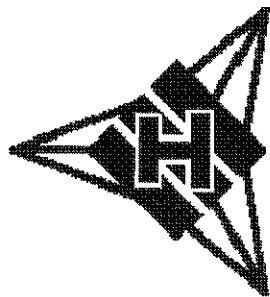
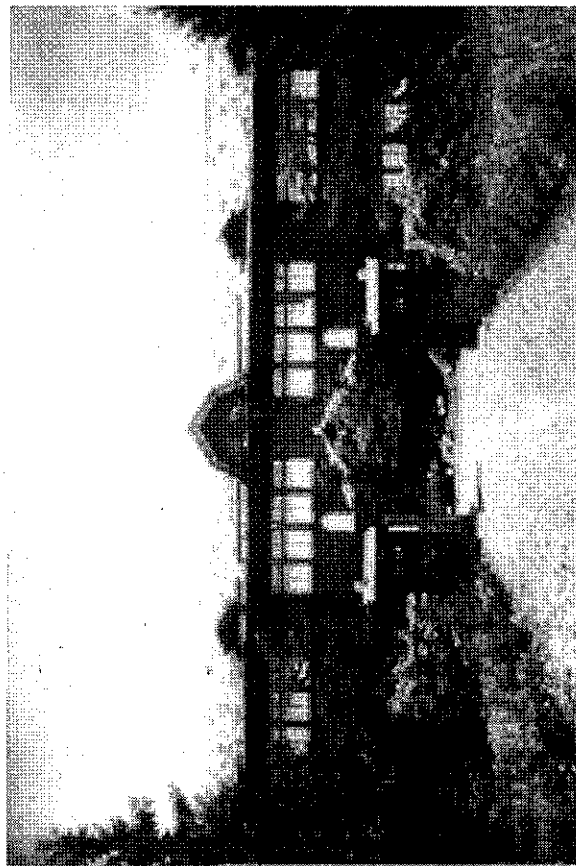
滝川工業高等学校の活性化について ～土木科存続に向けて～

平成20年 8月17日

滝川工業高等学校の活性化を支援する会

1 滝川工業高等学校の歴史

今年で開校
88年
の歴史と伝統



空知支庁管内は本道の中央に位し、人口28万3千余、戸数52,286にして全道の冠たるのみならず、人文の程度大に進み産業また頗る発達し地方税の負担においても他管内に放出せり、然るに同管内には庁立学校として唯だ岩見沢町に空知農業学校あるのみにして、地方子弟教養上遺憾の点多きを以て空知支庁管内適當の地を選定して庁立中学校を設置せられんことを望む。(昭和35年滝川市史39頁より)

一の坂校舎 (S26)

沿革	T 9	北海道庁立滝川中学校開校	庁立中学校としては8番目、郡部としては最初にできた中学校
	S23	北海道立滝川高等学校 (普通科)	学制改革
	S25	北海道滝川西高等学校	学区制設定、男女共学
	S26	工業科 (土木科・電気科) 併置	
	S29	北海道滝川工業高等学校	普通科分離
	S34	工業化学科設置	
	S36	機械科設置	
	H 5	工業化学科閉科	
	H10	機械科、電子機械科に学科転換	

3 土木科が必要な地域性

空知は、土木科の必要性が高い地域



○空知は建設業就業者の割合が多く、特に中空知はその傾向が強い。

- ・ 全就業者に占める建設業就業者の割合 $\Rightarrow$ 空知 11.0%
中空知 12.4%
- ・ 全道平均からみた建設業就業者の割合 $\Rightarrow$ 空知 1.18倍
中空知 1.33倍

表1－建設業就業者の割合及び特化係数

	北海道	札幌市	空知	中空知	滝川
人口	5,600,705人	1,874,410人	358,920人	126,869人	44,831人
就業者数	2,414,969人	840,151人	139,551人	50,365人	18,748人
うち建設業	224,253人	69,668人	15,295人	6,231人	2,127人
建設業就業者の割合	9.3%	8.3%	11.0%	12.4%	11.3%
建設業就業者の特化係数	1.00	0.89	1.18	1.33	1.22

資料：総務省「平成18年事業所・企業統計調査報告」及び北海道「第115回北海道統計書平成20年」から

4 建設業人材育成における中核的役割

中空知管内建設業の人材育成における中核的な役割



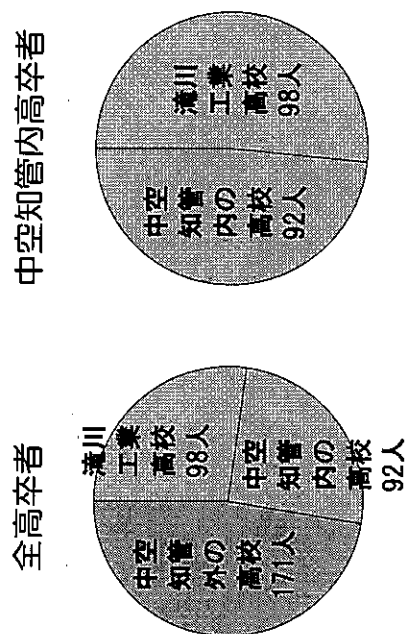
- 全高卒者の約2割が滝川工業高校卒
- 技術系高卒者の約4人に1人が滝川工業高校卒
- 技術系の中空知管内高卒者のうち5割以上が滝川工業高校卒

表1—中空知建設企業高卒者の出身高校

単位:人

	技術系	その他	計
滝川工業高校	98	15	113
中空知管内の高校	92	126	218
中空知管外の高校	171	72	243
計	361	213	574

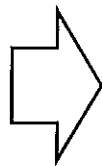
図1—技術系高卒者内訳



資料:中空知建設業連絡協議会「中空知管内建設企業の高卒者雇用状況調べ(平成20年6月)」から

5 早急な人材育成の必要性

早急な人材育成の必要性が高い

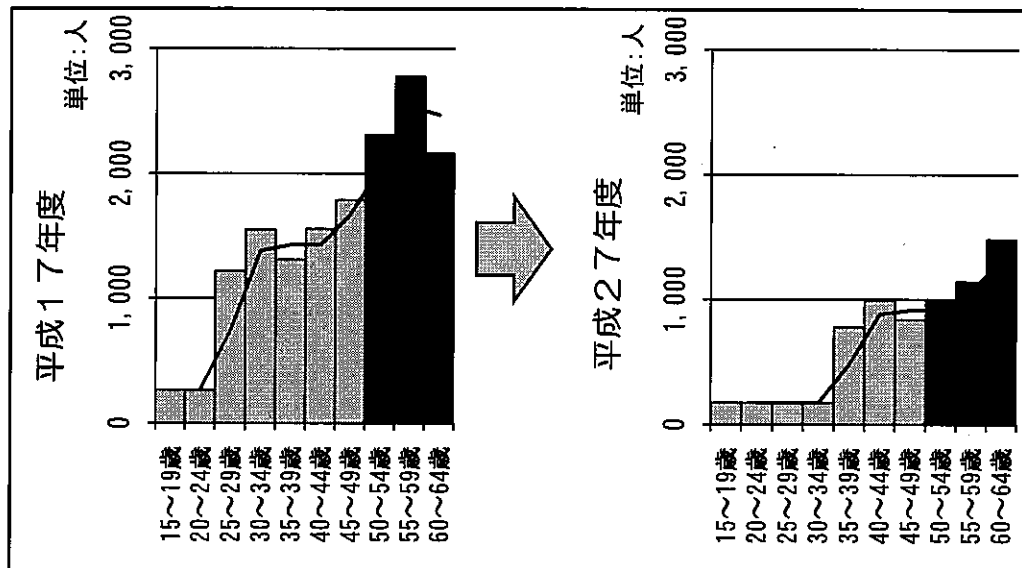


建設業就業者のうち、50歳以上の者が約4割を占め、今後10年間に於ける就業者数の激減が見込まれる。

表1—建設業就業者の年齢構成

	50～54歳	55～59歳	60～64歳	合 計
空知	2,306人 12.3%	2,775人 14.8%	2,161人 11.5%	7,242人 38.6%
岩見沢市	545人 12.9%	626人 14.8%	402人 9.5%	1,573人 37.1%
滝川市	313人 11.7%	387人 14.5%	296人 11.1%	996人 37.3%

図1—空知管内建設業就業者年齢分布



滝川市調べ(総務省「平成12年度国勢調査」から推計)

6 地域企業からの声

地域企業の二エース

⇒「即戦力となる人材・安定的な人材供給・高い職業意識を持った人材」



- ・基礎知識が身に付いているというだけでも、戦力として全く違う。(滝川市：建設業)
- ・この地域は中小企業が多い。企業内教育する体力も高くないことから、工業高校で基礎をしっかりと学んだ人材を採用し、3年で一人前になってもらわなければ困る。(滝川市：建設業)
- ・うちの会社の仕事は、土木科の基礎を要する。従って、工業高校でも土木科卒の人材にこだわっている。(滝川市：製造業)
- ・工業高校がなくなったら、人材の採用先に困る。職安に経験者の求人を出したとしても人材のレベルも不安定であり、年齢もバラバラ。希望者がいるかどうか不明で計画的な雇用ができなくなってしまう。(砂川市：建設業)
- ・定年の65歳延長への対応ということもあるが、やはり会社の年齢構成を踏まえ計画的に新卒者を雇用していくことは重要であり、工業高校に人材を求める必要性が高い。(滝川市：製造業)
- ・この地域に専門職がいなくなるということは、技術の伝承者がいなくなることである。将来を見据えた人材育成機関のあり方をきちんと考えてほしい。(砂川市：製造業)
- ・工業高校卒業者が、就職する気構えが違うのは確か。キャリア教育・職業意識がしっかりしている。(滝川市：建設業)
- ・企業としては、給料をいただいて責任をもって働くというキャリア教育も重要な要素であり、そういったことから、工業高校での教育を受けた人材は信頼性が高い。(滝川市：製造業)
- ・技術や基礎が身につけているということのほか、「中卒時にすでに将来的なビジョンをもって工業高校に進学するという決断をした」ということと自体が工業高校から採用する理由である。(砂川市：建設業)
- ・若い子は1年くらいですぐに辞めていく。しかし、自分の経験で言えば工業高校の子の方がしっかりと勤めてくれる。(砂川市：製造業)

7 学科の時代ニーズへの対応

時代のニーズに即した学科の転換等が必要



社会ニーズ（防災・環境・都市計画等）と生徒ニーズ（興味・関心・進路志向等）の合致

北海道教育推進計画

産業教育の充実 「産業構造の変化や地域産業の実態に対応した学科転換の実施」

新たな高校教育に関する指針

工業教育の充実 「高度情報通信や環境保全など、時代の進展などに対応した学科転換や科目の設定等により、活性化を図ります。」

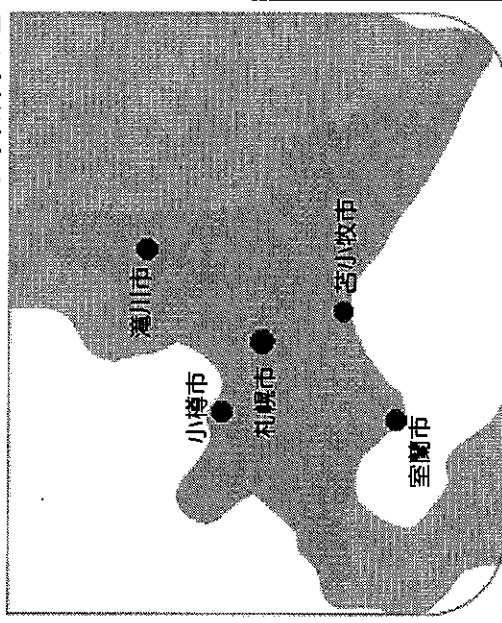
道央地区における土木科設置校

- 土木科 滝川工業高等学校・札幌工業高等学校・苫小牧工業高等学校・室蘭工業高等学校
- 環境土木科 小樽工業高等学校（建設科環境土木コース）

道外高校・工業高等専門学校・大学における名称

- | | |
|------------|------------|
| 道外高校 | 工業高等専門学校 |
| ○土木システム科 | ○環境都市工学科 |
| ○土木環境システム科 | 大学 |
| ○環境土木科 | ○社会環境工学科 |
| ○都市工学科 | ○社会基盤工学科 |
| ○都市システム科 | ○建設システム工学科 |
| | ○環境社会工学科 |

図1—道央地域における土木科所在地



滝川工業高等学校活性化プラン

(1) 「テクノグローバルリスト」育成プラン

滝川独自の地域資源を生かした特色ある高校づくり

- ・ 国際交流実績 国際協力分野におけるJICA関連諸国研修員等の入れ日数・人数 1,097日、401人(H7～H19)
- ・ 人材育成拠点の集積 スキルアップセンター、地元企業、花・野菜技術センター 国學院短大等
- ・ 地域との協力体制 滝川工業高等学校の活性化を支援する会、滝川市高等学校教育のあり方に関する校社市民会議、地元企業、各種職業訓練協会等

世界で活躍できる
人間として成長

2年間
技術の向上・熟練

人間の基礎・ものづくりの基礎の習得

地域の人材育成拠点

- ・ スキルアップセンター
- ・ 地元企業
- ・ 花・野菜技術センター
- ・ 短大
- ・ 専攻科等

工業高校
・ ものづくり

発展途上国の求める人材
・ ものづくり人材による技術力・創造性
※現地にある素材を活用し、地域に適した開発を可能とする。

青年海外協力隊
滝川校の創設
※同一地域での継続的な開発の実現

努力の継続
による自己実現

地域での活躍

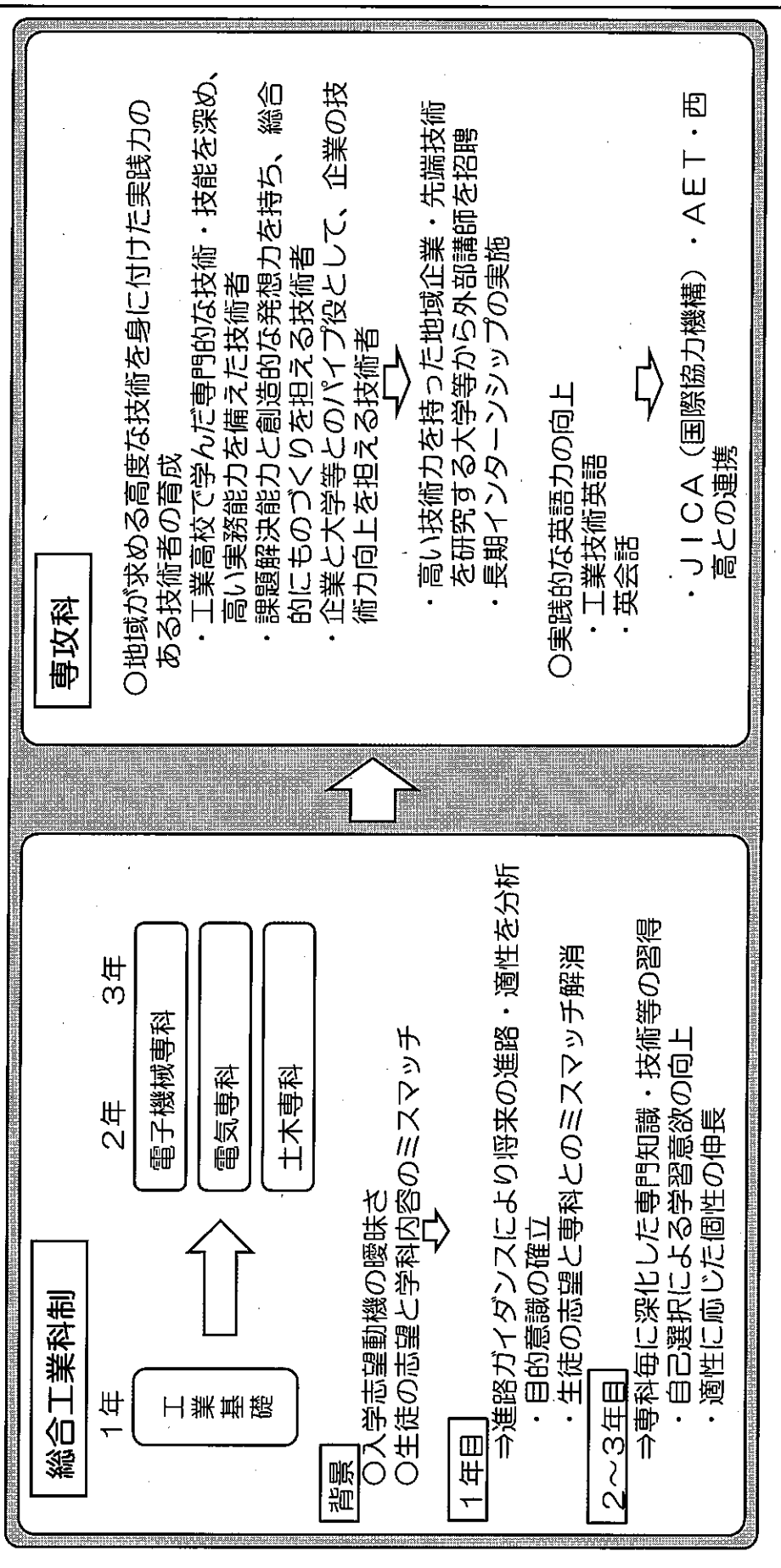
- ・ 地球規模の発想力による地域産業への貢献
- ・ 指導者としてさらなる国際交流推進

地域の人材集積・活性化
・ さらなる地域の魅力の高まり

滝川工業高校のステータス向上・魅力強化
⇒選ばれる学校へ
⇒希望者の増加（さらなる人材の流入）

ものづくり人材だからこそ可能となる開発協力

(2) 地域の望む工業高校の姿



目指す人材像

- ・将来目標 (夢) をもった人材
- ・学ぶ意欲 (技術力) をもった人材
- ・国際感覚 (豊かな心) をもった人材

自己実現できる人材
(自分の目標を持ち、努力を継続できる力)